



初心者のための単行書の分類

松本 純子

I. はじめに

「この図書室は本が分類されていて、大変利用しやすかった。ありがとうございます」最近、そのような挨拶をして退職したドクターがいました。図書館なら当然と思っていたことを感謝され意外に思う一方で、長年図書に携わってきた者には何より嬉しい言葉でした。「図書が受入順に並べてあったので、利用したい本を探し出すのに時間がかかり大変だった」という、ある研究所の図書室の話思い出し、改めて分類の重要性を認識しました。

II. 分類

1. 単行書（図書）の分類と標準分類表

整理されていない、さまざまな種類の資料を「利用できるように並べてください」と言われたらどうしますか。まず資料を種類別に分けることから始めるでしょう。単行書、雑誌、パンフレット類、視聴覚資料等に区分けし、さらに利用しやすいように、種類別に一定のルールに則って配列することでしょう。

ところで単行書の場合、もし独自で決めたルール（例えば受入順、診療科別、自館で作成した分類表等）で配列していると、蔵書量が増大すれば増大するほど、目的の図書を探すのに時間がかかり、利用面だけでなく、管理面でも支障を来すことになってきます。

利用者自身が見たい図書を容易に迅速に探し出せ、また図書館員も利用者へのレファレンス

サービスや蔵書管理がスムーズに行えるようにするためには、基本的条件のもとに編纂された標準分類表を採用し、その体系に則って図書を分類することが大切です。標準分類表は、時代の変化に対応して改版される点や、他館とも共通で利用できる利点があります。

2. 何のために分類するか

単行書は具体的内容から抽象的概念まで1冊、1冊が主題をもっています。分類表とは、共通する主題をもつ図書をグルーピングし、さらに書架上に並べる位置（分類記号）を決めるためのツールです。

分類表を使って図書を分類する効果として、次のような点が挙げられます。①探している図書を早く見出せる、②目的の図書の左右に類似書を見ることができる、③体系的に図書を見渡すことができる、④蔵書構成（収書）のムラがわかる、⑤利用者の希望図書がない場合、代替本を提供することができる、⑥各種統計調査に利用できる、⑦蔵書点検が容易である。

また図書に付与した分類記号は分類情報として利用され、目録カードあるいはコンピュータに蓄積された書誌データから、特定の図書を検索したり、体系的に検索し、その結果を一覧することもできます。

分類記号には数字、文字などが使われ、図書記号と合わせて請求記号とよばれています。図書記号は、同一の分類記号が数冊ある場合、さらに順序づけるために付与するもので、著者名のアルファベット、受入番号、発行年などが使われます。

次に我が国の図書館で普及している標準分類

表である、日本十進分類表と米国国立医学図書館分類表について簡単に紹介します。

3. NDCとNLMC

(1) 日本十進分類法 (Nippon Decimal Classification: NDC) 新訂第9版

日本図書館協会分類委員会改訂編集,
 (株)日本図書館協会発行, 1995.

NDC はアメリカの Dewey の十進分類法 (Dewey Decimal Classification : DDC) を導入し、日本の図書館で適合するように再構成された一般分類法です。日本の多くの公共図書館や大学図書館等で採用されています。

1995年、17年ぶりに新訂第9版が「本表編」と「一般補助表・相関索引」の2冊セットになって発行されました。

十進法という階層構造になっているため、形式的に理解しやすい反面、記号法が分類体系を優先しているため、新しい主題を挿入しにくいという欠点があります。以下は「医学」の階層構造の1例です。

400	自然科学	類
490	医学	網
491	基礎医学	目
491.3	生理学	} 細目
32	血液・循環	
326	脈搏	

(2) National Library of Medicine Classification (NLMC) Fifth edition

National Library of Medicine, 1994
 米国国立医学図書館分類法 (第5版 1994)
 日本語版 日本医学図書館協会編・発行,
 (株)紀伊國屋書店製作・発売, 1995.

NLMC は NDC の十進法に対して非十進法を採用しています。米国議会図書館分類法 (Library of Congress Classification : LCC) を基本とし、LCC の R の項目を医学専門分類として展開したものです。

分類の理論とは無関係な列挙型で、実用性を優先しているため、体系系列の概念の上下関係がはっきりしない面があります。

表1は NDC、NLMC それぞれの特徴を、表2は両者の構造を比較したものです。

4. 分類作業

分類の実務で重要になることは、①分類表に慣れ親しみ、②図書の内容を的確に把握し、③その図書館にふさわしい分類記号を決定することです。

図書の内容は、一般的に次の順でとらえます。

①書名をみる、②著者をみる、③目次、序文、あとがき、解説等を読む、④参考資料を調べる、⑤引用文献をみる、⑥通読する、⑦専門家に聞く。

分類記号を付与するとき留意すべき点は次のとおりです。①利用者の利便を第一に考える、②分類の一貫性を期す、③単行書扱いか、逐次刊行物 (雑誌) 扱いか、受入のときに決めておく、④双書、全集等は一括して分類するか、各巻別に分類するか決めておく、⑤相関索引を参考にする。

以上述べたように、分類作業で最も大切なことは、採用した分類表をよく理解し、明確な方針のもとに、分類した結果がつねに統一されるよう心がけることです。そのためには、その図書室の分類規程 (基準) を決めておくことが必要です。

分類規程の例としては、分類表を一部修正して使用する場合 (自館の規模や専門性に適した分類記号に変更)、複雑な主題・新しい主題等の取り扱い方、双書、全集等の分類方法などが挙げられます。また、分類に迷った図書など、以後の分類に参考になるよう記録を残しておくといよいでしょう。

5. 分類記号を参照できる情報源

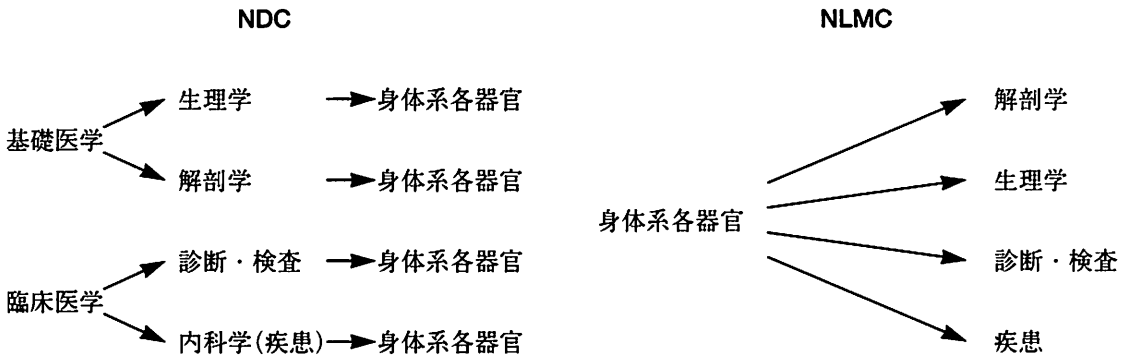
分類記号を付与するとき参考になる情報源を以下に紹介します。

(1) NACSIS Webcat : 全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌のデータベースを Web 上で検索できるシステムです。国立情報学研究所がサービスしている目録システムを通じて全国の参加図書館が共同作成しています。書名、著

表1. NDCとNLMCの特徴

NDC	特 徴	NLMC
<ul style="list-style-type: none"> • 一般分類法 • 十進分類法 • 分類記号は算用数字のみ • 書誌分類法……分析型 • 目録（カード）は分類目録を採用 • 助記性がある • 各主題を医学の学問体系に則って学（科）の部門と領域別に構成されている 		<ul style="list-style-type: none"> • 医学専門分類法 • 非十進分類法 • アルファベットと算用数字の組み合わせ • 書架分類法……集約型 • 件名目録を採用 • 助記的に用いられる例があるが一貫していない • 身体系と各器官を同一のカテゴリーとして扱っている
<ol style="list-style-type: none"> 1. 分類記号が算用数字のみで、記憶、書写、配列に便利 2. 体系的に図書を検索する場合に便利 3. 表が単純化され理解しやすい 4. 記号に助記性があり、助記表の組み合わせによって細分することができる 5. 記号に柔軟性があり、全体系を乱すことなく、精粗の使い分けができる 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 記号が簡潔である 2. 主題内が展開しやすく、未使用の記号を用いることによって、新しい主題を体系上適当なところに挿入できるので弾力がある（医学の発達に適応した追加、変更ができる） 3. 医学専門分類なので詳細な分類ができる 4. NLMC の用語と MeSH の用語は関連づけられているので、MeSH の Tree Structure を参照することにより、MeSH 用語に対応する分類番号を確認できる
<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい主題の挿入がしにくい 2. 十進式の記号に知識の体系を当てはめているので、体系が不合理である 3. 記号が冗長になりやすい 4. 主題の選択がわずらわしい 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 助記性、伸縮性に欠ける 2. 体系の系列も概念の上下関係がはっきりしない 3. 医学以外の分野の図書は、他の分類によらなければならない

表 2. NDCとNLMCの構造の比較



者名、ISBN (International Standard Book Number) などから特定の資料の詳細データや所蔵館名一覧が検索できます。単行書にはNDC、NLMC、等の主要分類記号が付けられています。

[<http://webcat.nii.ac.jp/>]

(2) 国立国会図書館 Web-OPAC：国立国会図書館が所蔵する和図書（約200万件）・洋図書（約20万件）のデータを検索することができます。NDCに従い、階層的にも検索できます。

[<http://webopac2ndl.go.jp/>]

(3) Library of Congress Cataloging-In-Publication Data (CIPデータ)：洋書の中には表題誌裏にその図書の書誌的情報 CIP データが印刷されており、NLMC、LCC、DDC の分類記号が記載されています。

(4) MeSH (Medical Subject Headings)/National Library of Medicine：NLMC の索引語は MeSH の用語が使われています。MeSH は毎年追加、変更されますので、分類表には採用さ

れてない、新しい領域の主題に対して分類記号を付与するとき、MeSH は有効な参考資料になります。

Ⅲ. おわりに

図書館業務のコンピュータ化が進むとともに、資料の整理法も大いに変化してきました。その中でも唯一変わらないのが図書の分類法といえます。本稿では初心者向けに分類の基本についてまとめました。本誌の実務シリーズ3²⁾で分類についてももう少し詳しく述べていますので、参考にしていただければ幸いです。

参考文献

- 1) もりきよし原編. 日本十進分類法. 新訂9版. 東京：日本図書館協会；1995.
- 2) 松本純子：実務シリーズ3 単行本の整理Ⅱ 図書（単行本）の分類. 病院図書室. 1993；13(4)：138-143.